

第39回 反弹圧闘争

南労会支部 I

九月十三日、東京で第三九回反弹圧闘争が行われた。一九七六年東京を中心に、闘う労働運動を大規模な弾圧が襲う。港合同も刑事弾圧を受ける。その年以降、毎年取り組まれてきた行動だ。
南労会支部からKとI
が参加した。

前日の現場行動

昼過ぎ東京駅に降り立つと秋の気配で大阪より大分涼しく感じた。

本日の現場は、①明日の反弹圧闘争の情宣(日比谷公園・霞門) ②鴻池運輸の雇止め解雇撤回、

東京支社行動(港区虎ノ門) ③大月書店の団交拒否、抗議の社前闘争(文京区本郷)で南労会支部

は③から参加。当該の福岡合同を中心に三六名の結集で闘う。

全争交に向け企画会議

現場行動の後、池袋の豊島勤労福祉会館で、来年の第三四回全国争議団・労組交流会、交流集会に

向けた企画会議が持たれた。各地の争議報告と各戦線の攻防状況等が討論され、来年三月八・九日の東京開催までの取り組み、任務分担が概略、確認された。

全都反弹圧闘争

集会は十三日午後一時からだが、公安私服警察が会場門前まで近づいてきてたむろし、集会監視、妨害を続ける。集会に先

立って、抗議のマイク情宣とシユプレヒコールを挙げ一定押し戻す。

集会では七団体からの連帯アピール。一坪反戦地主の会・関東ブロックからは、沖縄名護市議選

では基地反対派が過半数を維持、来る県知事選も優勢が伝えられる一方、辺野古海上行動に対しこれまで無い暴力的な妨害が繰り返されており敵側の決意の表れとして真剣に受け止める必要がある、と。

全国争議団・労組の紹介、基調提起に続く二労組二団体の決意表明で終了。

デモに出発!

日の傾きかけた午後三時に会場の千駄ヶ谷区民館を百三十七名の隊列で出発する。私服公安の力メララッシュを受けながら原宿竹下通りに差しか

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう!



かるや、今度は女子中高生と外国人のスマホ・デジカメラッシュに晒される。
デモコース沿道は代々木公園が真横にあり、件のデング蚊のたまり場、普段、蚊に刺されまくっている身としては恐怖感を覚え、長そで、編上げ靴、防虫薬で対策、幸い一度も刺されずに帰還。

野宿者追放、表現弾圧ゆるさない！

代々木公園の閉鎖は全国的に報道され、反原発集会なども開催場所変更となっているが、東京オリンピックを口実に都内各地の公園が、閉鎖や入場制限を実施、一つには野宿者の追放、今一つは、集会場所やデモの出発、解散地点として貸さない、まさに表現の自由を制限する悪質な攻撃となっている。
ゼネコン、大資本の利潤追求と労働者の自由、権利の侵害という権力にとっての一石二鳥＝東京オリンピック反対！

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！